

特集

認知症対策の 成果と未来



65 歳以上の約 7 人に 1 人が認知症とされ、誰もが身近に認知症に接する社会となる中、2014 年 11 月に東京で行われた国際会議「認知症サミット日本後継イベント—新しいケアと予防のモデル」を契機に、認知症対策の新たな戦略が展開されている。最新の治療と地域戦略の実状を知り、地域での保健活動を考える。

- 新オレンジプランおよび認知症対策の推進の重点

- 認知症治療の考え方と動向

- 認知症ケアパスの作成と活用

京都市における活用状況とこれから

- 認知症ケアパスの意義と活用

兵庫県西播磨圏域における認知症ケアネットと西播磨オレンジライフサポート

- 認知症サポーター養成を通じた金融機関の地域貢献

半田市における知多信用金庫の取り組みと行政の関わり

- 「認知症の人と家族のつどい」と保健所保健師の役割

茨城県鹿行保健医療圏における地域住民・医療との連携